

平成25年度 内閣府アウトリーチ 研修

浜松市精神保健福祉センター
TMC(株)キャリアアップスクール
2013/10/21～11/1

特 徴

一次相談を行政機関、訪問支援をNPOが行いケースの共有を図る官民協働での事業を行っている

訪問支援を行うのは医療機関や福祉施設、教育委員会等での就業経験のある精神保健福祉士が中心



県浜松総合庁舎4F
職員数15名

志望動機

◎ 官民協働で取り組まれている双方の役割を学びたい

八代市では官民一体で取り組む事業に対し、一部資金や広報活動・運営などの支援が行われる企画があり、自殺防止やメンタルヘルス不全を未然に防ぐため、職場や家庭に一人は欲しい

「人くすり カウンセラー養成普及啓発研修」を三か年で計画
市保健センターと協働で企画したが・・・

守秘義務の問題や目に見えない心の問題の実績が計れないなどの理由から計画が白紙になるということがあった

企画内容の見直しは勿論の事、他団体の取り組み官民協働で運営されている双方の役割を学び、地元に応じた内容を検討するためのヒントにする為

浜松市ひきこもり地域支援センターの 現状

◎ センターの概要

- ・設置年 平成21年7月1日
- ・設置形態 直営(精神保健福祉センター内に設置 一部NPOに委託)
- ・組織体制 1.浜松市精神保健福祉センター → 一次相談
当事者グループ運営
2.ひきこもり相談支援事業所こだま → アトリー支援
当事者コミュニティバス事業

◎ センターの特徴

- ・民間事業所と協働での実施

◎ 協働でのメリット

- ・行政が家族の一次相談を行う事でアセスメントに必要な情報が集まりやすい
- ・家族と当事者を別々に支援することで本人に寄り添った支援が可能
- ・居場所支援において、民間事業所の方が活動の為の施設が活動しやすい

浜松市ひきこもり地域支援センターの 課題

- ◎ ケースの見立てが重要、一次相談を行うスタッフ側の研修が必要

※センター資料より転載

研修内容

- ◎市職員研修・面談 簡単な聞き返しと要約の体験、ワーク
- ◎E-JAN研修・クライアントの自己決定(自己決定を促して尊重する)
// WRAP元気回復行動プランの勉強会
- ◎センター主催講演会・精神障害を理解する研修「パニック障害」
- ◎浜松市精神保健福祉 審議会傍聴



期間中の研修内容概要

- ◆ 公共、民間の精神福祉関係機関の14施設見学
活動内容等の説明、支援活動参加
就業支援やサポステなどの支援者より運営の説明
- ◆ 公共民間による各ミーティング、勉強会、講演会「パニック障害」参加
- ◆ 浜松市精神福祉審議会の傍聴
- ◆ FMハロー「いのちの手紙」収録見学
- ◆ アウトリーチ実地研修参加「ひきこもり相談事業所こだま」
// 「精神相談支援事業所ほくえん、ひだまり」

浜松市ひきこもり相談支援事業所 「こだま」

- ① ご家族ご本人から浜松市精神保健福祉センターに相談
- ② 面談 センター相談員がインテーク面談 アドバイス
- ③ センター相談員とこだまスタッフで支援検討 本人承諾要
- ④ 訪問支援スタート・居場所と交流スペース



将来の就労・就学に向けた支援
サポステはままつ併設



～内容～

週3回午後1時～5時まで

参加無料 ひきこもりからの回復を目指す

*こだまパンフレットより抜粋

中山間地支援

～仲間づくりと居場所づくり～

もっとみんなで集まれる場所があるとイイね
グループ活動「ひだまり」



精神障がいを抱える方が集える場を作り、安心した
日中の居場所をもてるようにする
その中で様々な活動を通し、仲間作りの輪を広げ
社会性を身に付けその人らしいそれぞれの社会参加
及び自立の促進をはかっていくもの

天竜厚生会 グループ活動「ひだまり」より抜粋

毎週木曜日午後1時～
担当2名

活動4か月分内容(メニュー)決め

参加者:40代後半～50代後半男性

参加者が持ち寄ったCD等を聴き、お茶を飲みながらグループワーク
参加者の意見を尊重し、担当が進行自己決定を促していた
活動内容の中に「喫茶店にみんなで行こう」どこに行く??等
後半には積極的に意見や希望が出ていた

研修を通して印象に残っている事

- ◎ 専門家のマンパワーが揃い、連携している事に驚いた
- ◎ 市センター、民E-JANのミーティングに多く参加したが両方共時間を沢山取り、職員が同じ立場で向き合い当事者支援に尽力していた
- ◎ 資質向上の為勉強会や研修など業務を超えた努力に感銘した
- ◎ 多くの支援者の意見に、利用者の適材適所を見極める「マッチング」の大切さを訴える意見が聴かれた
- ◎ 浜松市では母子手帳と別に子供の成長記録を残す「はますくファイル」を作成配布している
出生前から就職記録まで長い期間の記録を残すことが出来る

考察と今後に活かしたい事

考察

- ◎ 官民一体で取り組んでいる浜松市は一次相談を行政で受け、民間団体へと連携している
- ◎ 民間団体E-JANは代表のご尽力や人柄と事務局長始めスタッフの実績が、他団体のパイプ役になり現在に至る理由に一団体のみで運営せず各団体をつなぐパイプ役として、様々な専門家が連携しやすい環境をつくった
- ◎ 様々な勉強会を重ね支援者の資質を高め、他団体と連携を深めている
- ◎ ハード面は施設が近距離にあり、各団体の連携には利便性がすぐれスペースにもゆとりがあり衝立や個室など完備されており利用しやすい環境

今後、活かしていきたいこと

- ◎ 政令浜松市と八代市では自治体の仕組みが違うため同じ様にはいかない
- ◎ 地元の関連施設、連携できる資源の調査
- ◎ ネットワークづくり・勉強会等
- ◎ 専門家の意見を聴き、地元の現状に合った支援策を模索する
- ◎ 私どもスクールの定義付け、役割の線引きを明確にする
- ◎ フリースクールの検討を行う(専門家の意見を聞く)

研修報告

副所長の言葉

「これからも情熱を持ち続けてください」

浜松市は行政と市民一体となり当事者支援の為
日々情報交換や勉強会など連携を取りながら積極的に活動している
努力の積み重ねにより支援者の質の高さは言うまでもなく
トップの人柄、支援者の情深さに「力を授けてもらった
頑張っている仲間の存在に私たちも・・・



浜松市精神保健福祉センター

所長と職員の皆様

E-JAN事務局長



たくさん学ばせて頂きました
皆さん、お世話になりました
ありがとうございました